



米国生まれの日本育ち 生産・物流シミュレータ
FACTOR/AIM ユーザ企業紹介

日本無線株式会社 様

市場ニーズにすばやく応える 生産ライン構築をシミュレーションで実現

目まぐるしく変化する移動体通信機器市場。

この分野でのユニークな製品開発で知られる日本無線は、小さなニーズも見逃さず、的確にとらえることで競合他社との差別化を図っている。

そんな中で、FACTOR/AIMによる生産ライン構築は、どのように生かされているのだろうか。



日本無線株式会社
生産本部 機構技術センター
生産技術課
森野 毅 氏

IT社会のニーズを的確にとらえるために FACTOR/AIMの生産シミュレーション

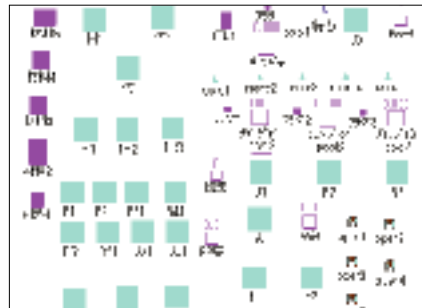
社名の通り無線技術のスペシャリストである日本無線。その商品の中のひとつである情報通信機器や携帯電話は、尽きることのない技術革新と市場ニーズの変化にさらされている。そのために、製品ライフサイクルは短く、この市場における競争力向上のためには製品企画から市場投入までの期間を短縮することが不可欠である。また、納入企業の品質基準も年々厳しいものとなっており、ただ生産スピードだけを追求するわけにもいかない。品質と生産効率を両立するために、ラインの事前検証→生産開始→結果検証→修正というプロセスを手作業で行っていたは、数ヶ月間という生産期間も大半が過ぎてしまう。そんな悩みを解決するために、日本無線が選んだ一手はFACTOR/AIMだった。

「現状ラインを検証して、滞留を明確にできれば、さらに増産することも可能になります。一度データを入力してしまえば、条件を変えるだけでさまざまな状況を試せるので、後が楽ですね」と語るのは、生産技術課の森野毅 課長。

近年はセル生産方式での生産体制に移行しつつあるが、「人による工程でも、習熟度、段取り時間などで正確なデータさえ与えてやれば、正確な答えが返ってきます」という。

FACTOR/AIMのシミュレーションが 今後の生産改革のカギへ

日本無線での携帯電話の主力生産ラインとなっている工場では、ライン構築段階にFACTOR/AIMの出力結果を活用し設計している。だが、ライン稼働以降の変更など、



FACTOR/AIMのシミュレーションモデル図

問題点へのリアルタイム対応にも更なる活用への余地が有りそうだ。



水に深く耐水性能搭載
アウトドアモデルの
iモード携帯電話
NTTドコモ ユーバ R6921

森野課長も「生産現場のソリューションは、誰かがやらなくては始まりません。全員の共通認識を高めていくためには、やはりシミュレーションによる問題提示が有効だと思います」と語る。

現場で共に汗して現状を把握。それらをシミュレータで目に見える形にすることにより、生産ラインの改革に生かしていく。

FACTOR/AIMのラインシミュレーションで、森野課長の生産技術課はさらに存在感を増している。

日本無線株式会社

創業	1915年(大正4年)12月
従業員数	3,428人(2002年3月末現在)
売上高	1,454億円(2001年度)
事業内容	システム機器製品(水・河川情報システム、防災情報システムなど)、通信機器製品(携帯電話、携帯電話基地局装置など)、船舶用電子機器製品(GMDSS無線通信装置、船用レーダ、GPS航法装置など)

詳しくはこちらまで▶ www.kke.co.jp/csrp/ 株式会社 構造計画研究所

数理技術部 シミュレーション技術室

〒164-0011 東京都中野区中央4-5-3 TEL. 03-5342-1124 FAX. 03-5342-1224

※CSRPIは構造計画研究所が商標登録出願中です。※記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

「生産・物流シミュレータ: FACTOR/AIM」による実践シミュレーションセミナー

日時: 2002年11月21日(木) 13:00~17:00

場所: 新大阪シティプラザ

問い合わせ先: 03-5342-1124